

OWNER'S MANUAL



PORTABLE THUNDERBOLT™ / USB AUDIO INTERFACE



目次

1. 製品を安全にご利用いただくために	5
2. はじめに	6
3. 主な仕様	7
4. クイックスタート	8
5. インストールガイド	9
6. フロントパネル・リアパネル・サイドパネル	
6.1. フロントパネル	10
6.2. リアパネル	12
6.3. サイドパネル	13
7. ソフトウェアコントロールパネル	14
8. 高度な注意事項	23
9. 同梱品	23
10. トラブルシューティング	24
11. 技術仕様	26
12. サポート	27

1. 安全にご利用いただくために



感電・火災などのリスクを減らすためにご一読下さい。

- ねじを外したり、カバーを開けないでください。ユーザー様ご自身で修理できるパーツはございません。修理や調整が必要な場合はテクニカルサポートまでご連絡ください。
- 水に濡れる可能性がある場所や、湿度の高い場所にさらさないでください。
- 万が一、異物や液体が製品に混入した場合は直ちに電源を落とし、コンセントを抜いてください。異物や液体が完全に取り除かれるまでは使用を控え、メーカーまでご連絡ください。火災や致命的な故障の原因となります。
- 濡れた手で電源ケーブルに触れないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しする場合は、必ず本体の電源スイッチを落とした状態で行ってください。
- 本体の上に物を置かないでください。また本体は、周辺機器の動作に影響を与えそうな狭く換気の乏しい場所での使用はしないでください。
- 故障が起きたときはまず電源を落とし、電源ケーブルを抜いてください。自分で直そうとせず、テクニカルサポートまたはディーラーまでご連絡ください。
- 暖房器具からの熱風が直接あたる場所や、パワーアンプの近くには設置しないでください。
- お掃除の際には強い化学薬品は使用せず、電子機器専用のクリーナーをご使用ください。
- 本体の電源を入れる前に全ての周辺機器を接続してください。
- 本製品の電源ケーブルはアースが接続されています。アースを取り付けずに本製品を使用しないでください。
- AC電源ケーブルは人が踏んでしまうような場所や、他の物が上に乗ることのないように設置、接続するようにしてください。
- 本製品の電源を完全に落とす場合は、本体の電源を落としてからコンセントを外し、本体から電源ケーブルを抜いてください。
- ヘッドフォンやモニターを通して頻繁に、または長時間大きい音量・音圧に耳を晒してしまうと聴覚器官の損傷の恐れがありますので、くれぐれもご注意ください。
- 持ち運び、運送の際には必ず本製品をラックから外してお持ちください。
- 本製品は下記の温度環境で動作するように設計されています

0-50 °C、32-122°F

2. はじめに

この度は、Antelope Audio の Zen Studio+ をご購入いただき、誠にありがとうございます。

Zen Studio+ は、Antelope のプロフェッショナルポータブルインターフェイス Zen Studio の後継機です。拡張されたアナログとデジタルの接続性、12のワールドクラスのマイクプリ、そして Antelope のシグネチャークロッキングは、ハードウェアベースのヴィンテージエフェクトライブラリが付属します。

Thunderbolt™ と USB 接続の両方で、Zen Studio+ は、究極で最も汎用性の高いモバイルレコーディングシステムとなります。

Zen Studio+ には、EQ、コンプレッサー、ギターアンプ、キャビネットなど、ヴィンテージの FPGA ベースのエフェクトが追加されました。Zen Studio+ のモデリング能力の核は、カスタム FPGA チップです。この独自技術は、類似のデバイスよりもインターフェイスをより強力にします。複数のミックスを作成して管理するだけでなく、独創的なスタジオやハードウェアのクラシックサウンドにも目を向けることができます。

このインターフェイスは、トークバック機能により、録音アーティスト、エンジニア、プロデューサーの間で簡単かつ迅速にコミュニケーションをとることができます。Zen Studio+ には専用の Reamp 出力があり、モバイルレコーディングやライブツアーだけでなく、プロギタリストにとっても最適な選択です。このポータブルインターフェイスには、最も安定したタイプのクロッキング、10MHz アトミッククロック入力も装備されています。

Zen Studio+ は、PC/Mac 用の直感的な操作が可能なデスクトップアプリケーションを介して全ての機能を制御可能です。柔軟なルーティングとカスタマイズ可能なプリセットを提供し、ユーザーは独立した2つのヘッドフォン出力とモニター出力に、ゼロレイテンシーミックスを最大4つ作成できます。

詳しくは弊社ホームページをご覧ください
www.antelopeaudio.com

Enjoy working with Zen Studio+!

All the best,
The Antelope Team

3. 主な仕様

- ハードウェアベースのヴァンテージエフェクト : EQs, compressors, guitar amps & cabinets
- 独自の FPGA で強力な実機モデリングを実現
- Thunderbolt™ 対応
- カスタム USB 2.0 Type-B コネクタ採用
- 12機の クラスAマイクプリアンプ搭載、個別にファンタム電源供給可能
- 2つのリアンプ出力
- 4つの Hi-Z 対応インプット
- DB-25 端子搭載
- 2つのモニターチャンネル
- 2つの独立したヘッドフォン出力
- Thunderbolt™ 接続で最大 192kHz、32チャンネルに対応
- USB 接続で最大 192kHz、24チャンネルに対応
- ADAT 対応、最大16チャンネル
- S/PDIF 対応 (2チャンネル)
- トークバックマイク搭載
- 自由度の高いルーティングとゼロレイテンシーミキサー
- Antelope の代名詞、64-bit Acoustically Focused Clocking(AFC) 搭載
- オープンコントロールオシレーターを搭載、精密なクロッキングを実現
- ワードクロック搭載、他の機器と簡単に同期
- 5つのプリセット領域、簡単に保存、呼び出しが可能
- 直感的操作が可能な Windows/Mac 対応のデスクトップアプリケーション

4. クイックスタート

電源をリアパネルのソケットに接続して下さい。

Windows

1. お使いのパソコンと USB ケーブルで接続して下さい。
2. Zen Studio+ のランチャーをダウンロードしてください。
<http://en.antelopeaudio.com/products/zen-studio-plus/>
3. ランチャーを起動すると自動的にソフトウェアコントロールパネルがダウンロードされます。
4. ソフトウェアコントロールパネルを開き、指示に従ってアクティベーションを行って下さい。
5. Zen Studio+ に使用する入出力を接続して下さい。
6. お使いの DAW を開き、使用するデバイスを Zen Studio+ に設定して下さい。

注意: ご使用の Zen Studio+ に最新のファームウェアがインストールされていることを確認してください。ファームウェア情報を確認するには、情報パネルを選択し、Firmware Update をクリックします。

Mac OS

1. お使いのパソコンとThunderbolt™ または USB ケーブルで接続して下さい。
2. Zen Studio+ のランチャーをダウンロードしてください。
<http://en.antelopeaudio.com/products/zen-studio-plus/>
3. ランチャーを起動すると自動的にソフトウェアコントロールパネルがダウンロードされます。
4. ソフトウェアコントロールパネルを開き、指示に従ってアクティベーションを行って下さい。
5. Zen Studio+ に使用する入出力を接続して下さい。
6. お使いの DAW を開き、使用するデバイスを Zen Studio+ に設定して下さい。

注意: ご使用の Zen Studio+ に最新のファームウェアがインストールされていることを確認してください。ファームウェア情報を確認するには、情報パネルを選択し、Firmware Update をクリックします。

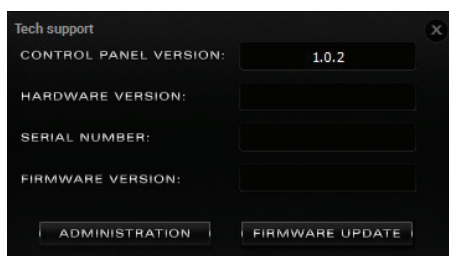
Zen Studio+ 推奨環境

動作環境: Thunderbolt™ 対応 Mac もしくは USB 2.0 対応の PC/Mac

CPU: Core 2 Duo 以上、Core i3 / i5 / i7 / E5 推奨

Memory: 4 GB RAM 以上、8 GB RAM 推奨

OS X: 10.9.3 以上



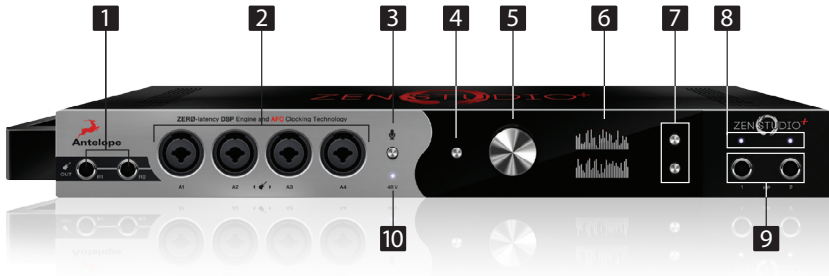
5. アクティベーションガイド

本機はアクティベーションが完了しないと使用できません。
必ずアクティベーションを行って下さい。

1. www.antelopeaudio.com/products/zen-tour/ にアクセスして下さい。
2. Zen Studio+ のランチャーをダウンロードしてください。
3. ランチャーを起動するとソフトウェアコントロールパネルが自動でダウンロードされます。
4. アクティベーション画面が表示されます。既にアカウントをお持ちの方は "Use existing Antelope ID" をクリックしログイン情報を入力して下さい。
アカウントをお持ちではない方は、"user ID" "e-mail" "password" を入力し "Done" をクリックして下さい。
5. 登録したメールアドレスに確認用のメールが送信されます。メールを開きのアクティベーションリンクをクリックしてください。もしメールが見当たらない場合は迷惑メールフォルダを確認して下さい。
6. ランチャーに戻り、記入項目を埋めて "Done" をクリック下さい。
7. 以上でアクティベーションは完了です。

6. フロント、リア、サイドパネル

6.1. フロントパネル



1. リアンプ出力×2

リアンピングで使用するダイレクト出力です。

2. Hi-Z / マイク / ライン 入力×4

4機のクラスAマイクプリアンプ、ファンタム電源供給可能、Line / Hi-Z にも対応

3. トークバックボタン

トークバックボタンを押すとトークバックマイクが有効になります。信号はソフトウェアコントロールパネルで選択したヘッドフォン、モニターへ出力できます。

4. 電源ボタン

スタンバイ / 起動を切り替えます。2秒長押しするとサブメニューを選択することが出来ます。

- Mic Gain Control (コントロールダイヤルでマイクゲインを調整します)
- Sample Rate (サンプリングレート選択)
- Volume Knob Control (3つのモニター出力の調整が出来ます。)
- Screensaver Time (スクリーンセーバーが起動する時間を調整できます)
- Device Info (デバイス情報表示)
- Factory Reset (工場出荷時の状態に戻す)

コントロールダイヤル

メイン出力ボリュームとヘッドフォンボリューム用の大きなステップドアッテネータです。コントロールダイヤルをクリックすると、3つのモニタリングオプションを選択できます。

6. ディスプレイ

多機能ディスプレイです。5つのオプションを選択設定可能です。(オプションボタンを使用)

- ソフトウェアコントロールパネルから調整可能な最大32チャンネルを同時に表示するピークメーター
- 設定項目
 - Sync – 現在のクロックソースを表示
 - SR – 現在のクロックソースを表示
 - DAC Vol – 現在の DAC ボリュームを表示
 - HP1 Vol – ヘッドフォン出力1の音量を表示
 - HP2 Vol – ヘッドフォン出力2の音量を表示
- その後の3つの画面には、12個のプリアンプのそれぞれの現在の入力トリム状態が表示されます。
ディスプレイの上には、保護フィルム 貼ってあり薄暗く見える可能性がありますので、ご自由にお剥がし下さい。

7. オプションボタン

2つのオプションボタンで、5つのオプション画面を上下にスクロールできます。

8. ヘッドフォンライト

このライトは、どのヘッドフォン出力がアクティブであるかを表すために点灯します。両方のランプが消灯している場合、モニター出力が選択されます。

9. ヘッドフォン出力

2つの独立したヘッドフォン出力は、コントロールダイヤルで選択して制御可能です。

10. ファンタム電源ライト

ファンタム電源が有効になっているときに表示されます。

6.2. リアパネル



11. ハイスピード USB

Zen Studio+ は USB Type B を採用し、Antelope ASIO を使用して最大 192kHz のサンプルレートで動作します。

12. DC 電源コネクタ

Antelope の専用電源以外は使用しないで下さい。

13. Thunderbolt™ ポート

Zen Studio+ を Mac の Thunderbolt™ ポートに接続することができます。ケーブル別売り

14. D-SUB 25pin TASCAM互換 アナログ出力 (上段)

コネクタを使用すると、それぞれ8本のブレクアウトケーブルを取り付けることができます。

15. D-SUB 25pin TASCAM互換 アナログ入力 (下段)

コネクタを使用すると、それぞれ8本のブレクアウトケーブルを取り付けることができます。

16. メインモニターステレオ出力

アンバランス・ステレオ出力 (上がLch、下が Rch).

17. S/PDIF 入出力

75 Ω S/PDIF 対応

18. ワードクロック出力

ワードクロック出力用 BNC 端子

19. ワードクロック & アトミック・クロック入力

ワードクロック入力用 BNC端子、アトミック・クロック入力に対応

20. 8チャンネル マイク・ライン入力

8機のクラスAマイクプリアンプ。ファンタム電源供給可能なコンボジャック

21. AD インサード

A/D 変換前にダイナミクスプロセッサーや EQなどを接続するための2つの¼ TRS インサート (L&R)

6.3. サイドパネル

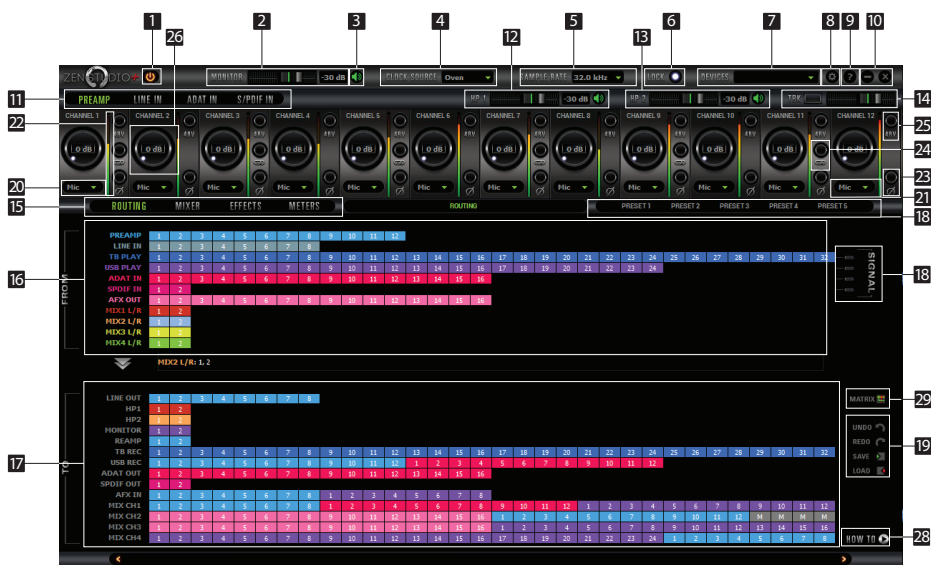


22. ADAT 入出力

2つの入力、2つの出力 (各端子、最大8チャンネル対応)

7. ソフトウェアコントロールパネル

7.1. ルーティング画面・メイン画面



ユニバーサルパネルは常にコントロールパネル上部に表示され、主な操作が簡単に出来ます。

このパネルでは、チャンネルをドラッグ&ドロップするだけで、入力を選択して、選択した出力にルーティングすることができます。各入力には個別の色が割り当てられています。チャンネルをルーティングするときは、選択した入力から選択した出力に色がコピーされます。複数のトラックを選択するには、[Shift]ボタンを押しながら入力チャンネルをクリックし、ドラッグアンドドロップします。出力を右クリックすると、トラックをミュートするか、設定タブで調整可能な2つオシレーターから選択した周波数を出力することができます。

1. 電源/スタンバイボタン
2. モニターボリュームスライダー
3. モニターミュート
4. クロックソース

このドロップダウンメニューで、Zen Studio+ のクロッキング方法を選択できます。

5. サンプルレート選択

クロックソースとサンプルレートを選択すると、入力/出力ルーターで使用可能なチャンネル数が自動的に決定されます。

6. ロックライト表示

Zen Studio+ が別のクロックソースに接続されると、パネルがロックされ、クロックソースに「Pad Lock」と表示され、プリセットを変更することができなくなります。

プリセットは、クロックソース情報とサンプルレートを保存しません。デバイスがクロックロックを受信している間にプリセットを調整します。

7. デバイス

コンピュータに接続されている Antelope Audio デバイスまたは同じネットワーク上の Antelope Audio デバイスを切り替えることができます。

8. 設定

9. 本体情報

10. 閉じる / 最小化

11. PREAMP / ADAT IN / S/PDIF IN セクション

12. ヘッドフォン (HP 1) ボリュームスライダー & ミュートボタン

13. ヘッドフォン (HP 2) ボリュームスライダー & ミュートボタン

14. トークバックボタン / トークバックライト & トークバックボリュームフェーダー

15. ROUTING / MIXER / EFFECTS / METERS セクション

16. 'From' セクション (ルーティング画面)

17. 'To' セクション (ルーティング画面)

18. プリセットセクション

5つプリセット領域を使用して、お気に入りの設定を保存して簡単にアクセスできます。

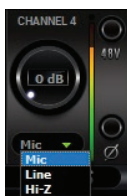
新しいプリセットを保存するには：

- Ctrl (PC) または Command (MAC) を押しながらプリセットボタン（ソフトウェアコントロールパネル内）をマウスでクリックする。または、
- Ctrl (PC) または Command (MAC) を押し、キーボードの1～5の番号を押します。

19. ルーティングの Undo/Redo : Save/Load (ルーティング画面)

20. Mic、Line、Hi-Z (1-4のみ) 選択

メニューで選択されているものが実際に入力されている種類と一致していることを確認して下さい。



21. マイク・ライン入力 (コンボジャック) 選択

メニューで選択されているものが実際に入力されている種類と一致していることを確認して下さい。



22. ピークメーター

23. 位相反転スイッチ

24. ステレオリンク

25. ファンタム電源スイッチ

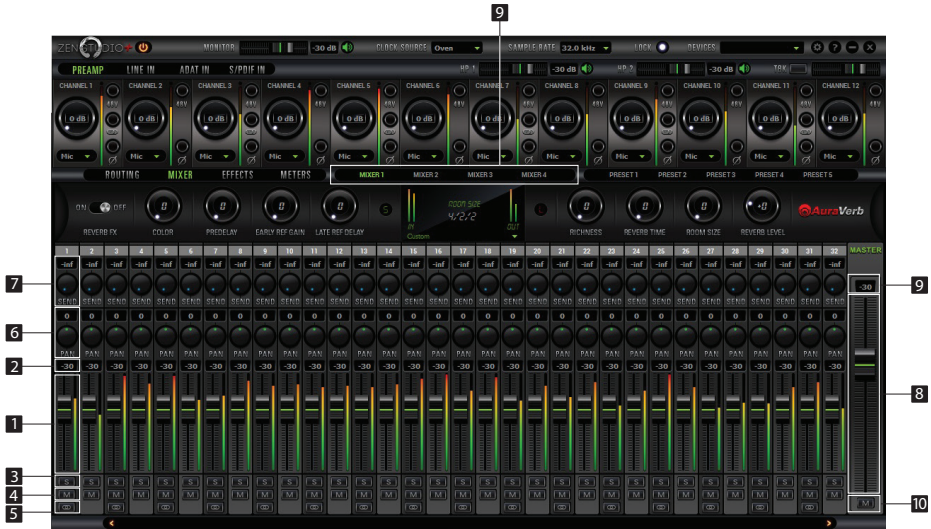
26. ゲイン

27. シグナルインジケーター

28. “HowTo...” ビデオチュートリアル

29. オルタネイティブ・ルーティングマトリックス

7.2. ミキサー画面



Zen Studio+ には超低レイテンシーミキサーが搭載され、0に近いレイテンシーでのミキシング及びモニターを実現させ、コントロールパネルを使った振り分けが可能であり、Zen Studio+ のどの出力からでも超低レイテンシーミックスアウトが可能です。

超低レイテンシーのミキサーは、ソロ、ミュート、パン、リンクチャンネル、フェーダー、マスターフェーダーなど、実際のミキサーの基本的な機能を搭載しています。ですので簡単にステレオミックスを作成でき、AuraVerb の使用できます。

1. フェーダー (ダブルクリックで0にリセット)
2. フェーダーレベル表示
3. Solo
4. Mute
5. ステレオリンク
6. Pan (ダブルクリックで0にリセット)
7. Send (ダブルクリックで0にリセット)
8. ミックスマスター (ダブルクリックで0にリセット)
9. ミックスマスターインジケーター
10. ミックスマスター ミュート
11. Mixer 1-4 表示 / 非表示



AuraVerb は実用性と操作性を兼ね備えたリバーブであり、Zen Studio+ により、お使いのパソコンに一切負担をかけず、ゼロレイテンシーに近いエフェクトモニタリングが可能です。AuraVerb はさらに、お使いの DAW からハードウェアエフェクトとして使用できるので、ミキシングやマスタリングの際にも AuraVerb を使用することが可能です。

デフォルトではリバーブはオフの状態です。



Quick Start

Zen Studio+ のミキサー上で AuraVerb はプリフェーダーセンドエフェクトとして表示されます。リバーブへ信号を送る場合、ミキサーの各チャンネルのセンドコントロールから設定し、ミキサーのマスターチャンネルへのリターン調整はリバーブアウトプットレベルから行って下さい。リバーブをモニターしたい場合、Zen Studio+ のルーティング画面から MIX1 [1][2] を MONITOR [1][2] ヘクリック・ドラッグすることでミキサー出力をモニターヘルルーティングできます。リバーブミックスの調整はミキサーチャンネルフェーダーのドライシグナルとリバーブアウトプットレベルで調整して下さい。

AuraVerb Parameters

- **Color**

AuraVerb のカラーコントロールはリバーブの全体的なトーンを調整できます。数値が0のときは暗い絨毯敷きの部屋の雰囲気、100のときは最も明るく、例えばリードボーカルにジリジリとしたエフェクトを足すことができます。

- **PreDelay**

Predelay は一般的なリバーブにもある機能で、音源ソースとリバーブ成分との間にディレイをかけるパラメーターです。設定範囲は環境サイズに基づいており、0～32ms の範囲です。このパラメータはプロジェクトのテンポや、強調したいタイミングに合わせて調整するとミックス内で最もリバーブ感を活かせることが出来ます。

- **Early Reflection Gain**

このパラメーターは初期反射の音を調整できます。レベルが低ければドライサウンドとよく馴染み、レベルが大きければ、トラックに厚みを増せます。

- **Late Reflection Delay**

AuraVerb は仮想空間における壁や天井から反射される振動を計算します。そしてこのパラメーターはこのような反響のディレイを調整することができ、仮想空間上でのエコーの生成や空間的な印象を操作できます。

AuraVerb では、音響環境をより細かく設定するために、いくつかのパラメータを微調整することができます。

- **Richness**
- **Reverb Time**
- **Room Size**
- **Reverb Level**

AuraVerb には、さまざまなジャンルや楽器に適した24のプリセットが用意されています。

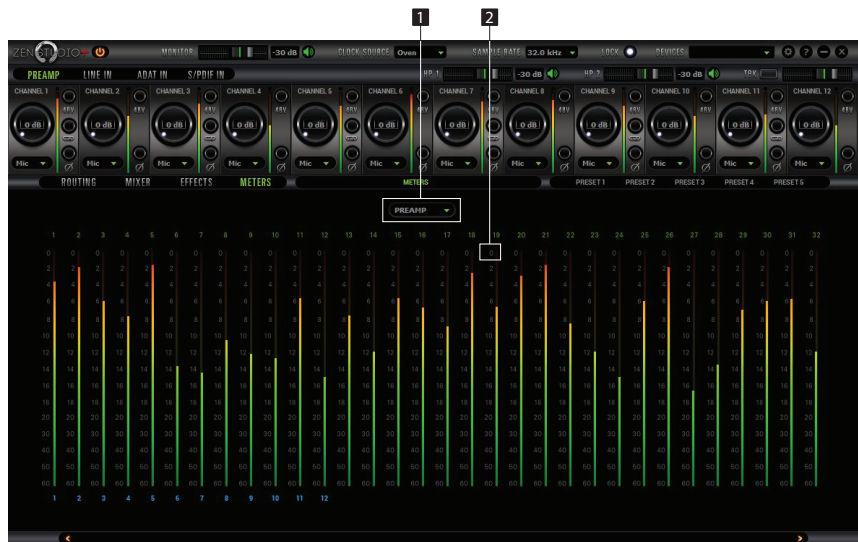
S&L アイコンは、AuraVerb プリセットの保存と読み込みが出来ます。

7.3. エフェクト画面

16個の Zen Studio+ AFX チャンネルストリップを表示します。EQ、コンプレッサー、ヴィンテージギターアンプ、キャビネットのいずれかを選択できます。Zen Studio+ には、常に最新の FPGA Vintage FX "Legendary Studio Gear Antelope Audio Library" が付属しています。それらはすべてリアルタイムのトラッキングまたはミキシングに使用できます。お気に入りの設定が保存されているプリセットは、Antelope Audio のグローバルファミリーの一部でもあるスタジオ施設と簡単に保存、呼び出し、共有できます。



7.4. メーター画面



メーター画面クリックすると、32チャンネルメーターが表示され、ピークメーターを使用してソースを視覚化します。ドロップダウンメニューから、ディスプレイに表示するソースを選択できます。

1. メーターソース

メニューから以下を選択できます。

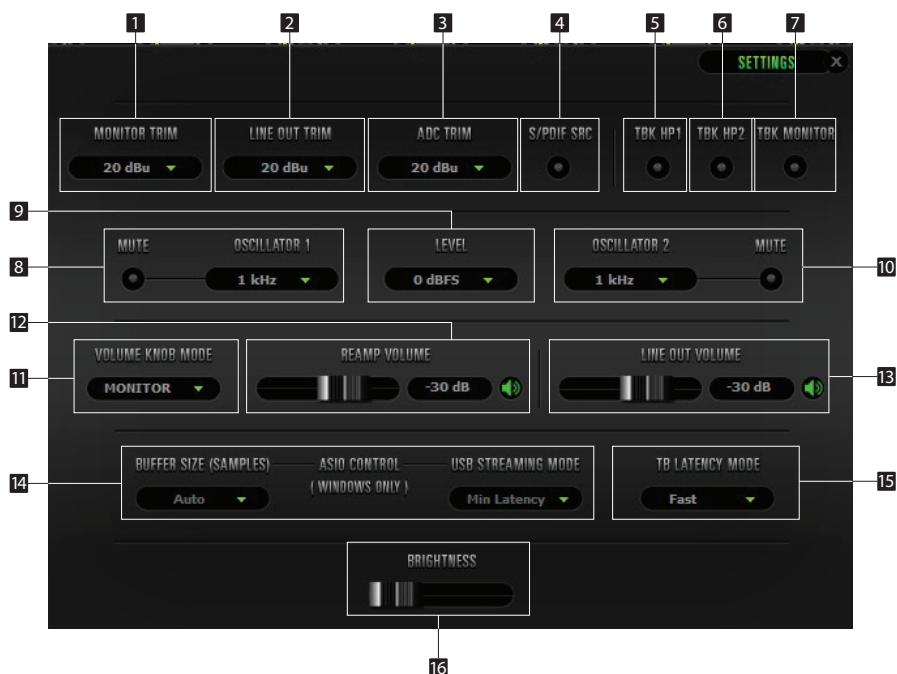
Preamp	Mix 2 L/R	Thunderbolt™ Rec
Line in	Mix 3 L/R	ADAT Out
USB Play	Mix 4 L/R	S/PDIF Out
Thunderbolt™ Play	Line Out	AFX In
ADAT in	HP1	Mix 1 Ch
S/PDIF In	HP2	Mix 2 Ch
AFX out	Monitor	Mix 3 Ch
Mix 1 L/R	USB rec	Mix 4 Ch

2. クリッピングライト

オーバーロードしたチャンネルを表示します。

7.5 設定画面

ギアアイコンをクリックすると以下の画面が表示されます。



1. モニター出力トリム
2. ライン出力トリム
3. ADCトリム
4. SPDIF SRC
5. トークバックヘッドフォン出力 (HP 1) 表示ライト
6. トークバックヘッドフォン出力 (HP 2) 表示ライト
7. トークバックモニター出力
8. オシレーター 1 & ミュート
9. オシレーターレベル
10. オシレーター 2 & ミュート
11. ボリューム調整選択メニュー
12. リアンプボリューム
13. ライン出力ボリューム
14. Windows のみ: ASIO設定 - バッファサイズ & USB ストリーミングモード
15. Thunderbolt™ レイテンシーモード
16. ディスプレイの明るさを調整

With the Zen Studio+ in operating mode, press and hold the standby button to bring up Device INFO and Factory Reset options in the front panel display. You can scroll between these, using the Settings buttons. To initiate either of these desired options, press and hold the bottom options button.

Clock Source ADAT options: (Note that there is no S-Mux check-box for ADAT as it automatically enabled when you select ADAT 2X or ADAT 4X):

Sample Rate	Thunderbolt™	USB	ADAT	S/PDIF
32 kHz	32 ch	24 ch	16 ch total / 8 ch per line	2 ch
44.1 kHz	32 ch	24 ch	16 ch total / 8 ch per line	2 ch
48 kHz	32 ch	24 ch	16 ch total / 8 ch per line	2 ch
88.2 kHz	32 ch	24 ch	8 ch total / 4 ch per line	2 ch
96 kHz	32 ch	24 ch	8 ch total / 4 ch per line	2 ch
176.4 kHz	32 ch	24 ch	4 ch total / 2 ch per line	2 ch
192 kHz	32 ch	24 ch	4 ch total / 2 ch per line	2 ch

8. 高度な注意事項

グラウンドループハムとノイズ

Zen Studio+ はこれらを可能な限り極限まで抑えた設計になっております。システムの全てのオーディオ信号に用いられるケーブルは、できるだけ短く、シールドを有するバランスケーブルを推奨します。また、電源ケーブルはオーディオケーブルとは別々に配線しグラウンドノイズを避けるために専用の電源ボックスやパワーコンディショニングユニットの仕様をお勧めします。

9. 同梱品

- Zen Studio+ 本体
- クイックスタートガイド
- 保証書
- USBケーブル×1
- DC電源アダプター×1

10. トラブルシューティング

起動とサウンド

- 最新版のファームウェアとコントロールパネルを使用していますか？

使用していない場合は最新のものにアップデートして下さい。

- ルーティング上で正しくオーディオ信号がルーティングされていますか？

USB / Thunderbolt™ 再生の場合は、USB / Thunderbolt™ の再生チャンネルを選択し、ラインアウトチャンネルへドラッグ&ドロップしてルーティングして下さい。ルーティングの詳細については、Antelope Audio YouTube のページを参照してください。

- DAW上のサンプルレートと Orion Studio HD のサンプルレートは一致していますか？

Mac をお使いの場合は、オーディオ/MIDI設定画面からサンプルレートが正しく設定されているか確認しDAWのサンプルレートを確認してから Zen Studio+ のサンプルレートを確認して下さい。

Windows の場合 Zen Studio+ アイコンを右クリック、プロパティを選択し、詳細設定からプレイバックデバイスの設定を確認して下さい。そして、DAW と Zen Studio+ のサンプルレートが正しく設定されているか確認して下さい。

接続

信号が正しく入力されない、出力されていないと思った場合

- 入力ソースから正しく信号が発信されていることが確認できますか？
- 入力ソースは Zen Studio+ に対応するサンプルレートですか？
- 現在のクロックモードを確認して下さい。ソースからクロック信号を受信していますか？
- 接続している方法と Zen Studio+ のコントロールパネル上で表示されているロックライトが一致しているか確認して下さい。
- 違うケーブル、または別のソースで試して下さい。
- コントロールパネル上のルーティング設定を確認して下さい。シグナルパスは正しくルーティングされていますか？
- ルーティングミキサーへ信号をルーティングした場合は該当するフェーダーが上がっていることを確認して下さい。
- コントロールパネル上の該当するピークメーターをドロップダウンメニューから選択し、信号が受信されていることを、出力されていることを確認して下さい。

DAW

- DAW のバッファサイズを確認して下さい。

バッファサイズが極めて小さい場合 (Windowsのみ、128サンプルより小さい場合) は、設定値を上げてみて下さい。バッファサイズの変更は Zen Studio+ コントロールパネルから行って下さい。

- DAW 上の入出力は正しく設定されていますか？

DAW の環境設定で Zen Studio+ がサウンドカードとして設定されていますか？

- Zen Studio+ が DAWに表示されない場合は、まず USB ケーブルを抜いてプラグを差し込んだ後、コンピュータを再起動し、最後に Zen Studio+ のファームウェア、ドライバ、およびコントロールパネルを再インストールしてください。

11. 技術仕様

Analog Inserts	2 x Inserts on TRS (inputs 1,2)
Analog Inputs	4 x Mic / Line Instrument on XLR combos on the front 8 x Mic / Line on XLR combos on the rear 8 x Lines on DB25 (8 channels)
Analog Outputs	8 x Lines on DB25 (8 channels) 1 x Monitor out on TRS (2 channels) 2 x Stereo Headphone outs on TRS (4 channels) 2 x ReAmp outs on TRS (2 channels)
Digital Inputs	2 x ADAT 1 x S/PDIF
Digital Outputs	2 x ADAT 1 x S/PDIF
Thunderbolt™	1 x Thunderbolt™, 32 channels I/O
USB	1 x USB 2.0 Hi-Speed; Data stream up to 480 Mb/s/192kHz, 24 channels I/O, Type B
Word Clock Input	1 x Input @ 75 Ohms 3Vpp on BNC 32 – 192kHz
Word Clock Output	1 x Outputs @ 75 Ohms 3Vpp on BNC 32 – 192kHz
Atomic Clock Input	1 x 10MHz Input @ 75 Ohms 1Vpp on BNC
D/A Monitor Converter	Dynamic Range: 118 dB THD + N: -98 dB
D/A Converter	Dynamic Range: 118 dB THD + N: -105 dB
A/D Converter	Dynamic Range: 120 dB THD + N: -110 dB
Mic Preamp	Gain: 0, 10 – 65 dB THD + N: -108 dB
Clocking system	4th Generation Acoustically Focused Clocking 64-bit DDS Oven Controlled Crystal Oscillator
Clocking Stability	< +/-0.02 ppm, oven controlled at 64.5°C/ 148.1°F
Clock Aging	< 1 ppm per year
Clock Calibration	< +/-0.001 ppm
Sample Rates	32, 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192 (kHz)
Electrical Specs	DC Universal input: 18V Power Consumption: 25 Watts Max
Operating Temperature:	0-50°C/32- 122°F
Physical Specs	Width: 418 mm/16.5" / Height: 45 mm/1.8" / Depth: 145 mm/5.7" Weight: 2kg/ 4.4lb approx

12. サポート

Antelope Audio はハードウェア、ファームウェア、ソフトウェアコントロールパネル等、幅広いサポートサービスを提供します。

FAQ

よくある質問を弊社ウェブサイトにて公開しております。お困りの際にはご参照くださいませ。

<http://www.antelopeaudio.com/en/support>

お電話からのお問い合わせ

一般的な質問やテクニカルサポートはこちらまで : 03-5530-8476

受付時間 : 午前10時～午後6時 (日本時間 土日祝除く)

サポートデスク ※非日本語対応

下記のウェブサイトより「発券」して頂くと、24時間以内に対応させていただきます。

www.antelopeaudio.com/en/support/help-desk

ライブチャット ※非日本語対応

カスタマーサポート担当者はこちらのページからご接続下さい。

<http://www.antelopeaudio.com/en/support>

ページ右側の Antelope タブをクリックして下さい。

受付時間 : 午前7時～午後3時 (EST)

サポート資料・ソフトウェア

全てのデバイスマニュアル、データ資料、ソフトウェアはこちらからご参照ください。 [http://](http://www.antelopeaudio.com/en/support/downloads)

www.antelopeaudio.com/en/support/downloads

コントロールパネル・ニュースフィード

ソフトウェアコントロールパネルの下部にはニュースフィードがあり、最新の情報や該当する情報が表示されます。

YouTube Page

製品のチュートリアル、インタビュー、ユーザー事例や、最新の製品情報等を掲載しています。

<http://goo.gl/yfOmZf>

Web Blog

最新のユーザー事例等、役立つ情報を更新するブログです。

<http://www.antelopeaudio.com>

Notes

Notes



***Correct Disposal of This Product
(Waste Electrical & Electronic Equipment)***

(Applicable in the European Union and other European countries with separate collection systems)

This marking shown on the product or its literature, indicates that it should not be disposed with other household wastes at the end of its working life. To prevent possible harm to the environment or human health from uncontrolled waste disposal, please separate this from other types of wastes and recycle it responsibly to promote the sustainable reuse of material resources.

Household users should contact either the retailer where they purchased this product, or their local government office, for details of where and how they can take this item for environmentally safe recycling.

Business users should contact their supplier and check the terms and conditions of the purchase contract. This product should not be mixed with other commercial wastes for disposal.

OWNER'S MANUAL



PORTABLE THUNDERBOLT™ / USB AUDIO INTERFACE



www.AntelopeAudio.com